

再 評 価 調 書 (案)

I 事業概要						
事業名	林道事業(過疎山村地域代行林道事業)					
地区名	たひらざわひらせせん 田平沢平瀬線					
事業箇所	とよたしたていわちようなかさわ とよたしたひらざわちようしんめいまえ 豊田市立岩町中沢～豊田市田平沢町神明前					
事業のあらまし	<p>田平沢平瀬線は、愛知県北中部の豊田市(旧下山村)に位置し、市道下山神殿立岩線<small>しもやまかんのたていわ</small>を起点とし、県道東大見岡崎線<small>ひがしおおみおかざき</small>を結ぶ幹線的な林道である。</p> <p>当地域は豊富な森林資源を有しており、森林資源を有効に活用するとともに、森林の適切な管理・保全のため、林内路網の整備が必要とされていた。</p> <p>そのため、幹線となる林道を開設することにより、経済的かつ効率的な森林整備を可能にするとともに、水源かん養機能や災害防止機能など森林の持つ公益的機能の維持増進や林業生産性の向上を図ることを目的としている。</p>					
事業目標	<p>【達成(主要)目標】</p> <p>森林整備の効率化</p> <p>林道を開設することにより、間伐等の森林整備を1年あたり利用区域面積(332ha)の2%実施する。</p> <p>【副次目標】(必要に応じて記載する)</p> <p>—</p>					
計画変更の推移		事業採択時 (2013年度)	再評価時 (1回目) (2018年度)	再評価時 (2回目) (2023年度)	変動要因の分析	
	事業期間	2014～2024	2014～2024	2014～2029	現地に対応した工事内容の変更	
	事業費(億円)	16.5	16.5	23.0		
	経費内訳	工事費	16.5	16.5	23.0	当初計画時に想定出来なかった大きな転石群が、局所的に確認されたため、ロープ伏工、ロープ掛工及び転石破碎が新たに必要となった。 (0億円→1億円) 併せて道路線形を変更することとなり、並行する県道に落石等の影響が及ばないようにするための路側擁壁が新たに必要となった。(0億円→3億円) 脆弱な土質による法面工の工種の追加(0億円→2.5億円)
		用補費	—	—	—	なし
		その他	—	—	—	なし
事業内容	林道開設 延長 11,000m 幅員 4.0m	林道開設 延長 11,000m 幅員 4.0m	林道開設 延長 11,000m 幅員 4.0m			
II 評価						

①事業の必要性の変化	1) 必要性の変化	<p>【事前評価時の状況】</p> <p>当路線の利用区域内には、間伐などの森林整備を必要とする区域が広がっているが、必要な路網が整備されておらず林内へのアクセスが困難であるため、林道の整備が必要である。</p> <p>【再評価時（1回目）の状況】</p> <p>事業目標値 66.4ha に対し森林整備実績は 2.4ha 進捗率は 3.6%</p> <p>【再評価時（2回目）の状況】</p> <p>既に林道が開設された区間では、搬出を伴う間伐を含めた森林整備が行われ、未開設区間でも搬出をしない間伐が行われ、事業目標値を大幅に上回り着実に実施されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業目標値 66.4ha に対し森林整備実績は 77.5ha 進捗率は 116.7% <p>さらに、未開設の区間での搬出を伴う間伐の計画が進んでいるため、引き続き林道開設が必要である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施見込みの森林整備面積 158.2ha、森林整備実績は 77.5ha 実施予定面積 80.7ha <p>【変動要因の分析】</p> <p>近年、台風や線状降水帯などの豪雨による自然災害の頻発化、激甚化に伴い、森林の有する山地災害防止機能等の重要性が増しているため、今後さらに森林整備を加速させるために林道が必要である。</p>																																																																																																																																																																										
	判定	<p>B</p> <p>A： 事業着手時に比べ必要性が増大している。 B： 事業着手時に比べ必要性にほとんど変化がない。 C： 事業着手時に比べ必要性が著しく低下している。</p> <p>【理由】</p> <p>既に開設済の区間では森林整備の実績があり、今後も森林整備の推進のために林道事業は必要。</p> <p>森林の持つ公益的機能を発揮させるための森林整備の重要性は増しており、林内へアクセスするための林道の必要性も増大している。</p>																																																																																																																																																																										
②事業の進捗状況及び見込み	1) 進捗状況	<p>【事業計画及び実績】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>2014</th><th>2015</th><th>2016</th><th>2017</th><th>2018</th><th>2019</th><th>2020</th><th>2021</th><th>2022</th><th>2023</th><th>2024</th><th>2025</th><th>2026</th><th>2027</th><th>2028</th><th>2029</th><th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">工種区分</td> <td>調査・設計</td> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td> </tr> <tr> <td>林道開設工事</td> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">(億円)</td> <td>前回計画</td> <td colspan="11">16.5</td> <td colspan="5">-</td> <td>16.5</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td colspan="5">2.4</td> <td colspan="5">5.4</td> <td colspan="5">13.4</td> <td>1.8</td> <td>7.8</td> </tr> <tr> <td>今回計画</td> <td colspan="5">2.4</td> <td colspan="5">5.4</td> <td colspan="5">13.4</td> <td>1.8</td> <td>23.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>【進捗率】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="3">これまでの計画に対する達成状況</th> <th colspan="2">全体進捗状況</th> </tr> <tr> <th>計画【①】</th> <th>実績【②】</th> <th>達成率(%)【②÷①】</th> <th>計画【③】</th> <th>進捗率(%)【②÷③】</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>延長(km)</td> <td>11.0</td> <td>2.5</td> <td>23%</td> <td>11.0</td> <td>23%</td> </tr> <tr> <td>事業費(億円)</td> <td>16.5</td> <td>7.8</td> <td>47%</td> <td>23.0</td> <td>34%</td> </tr> <tr> <td> 工事費</td> <td>16.5</td> <td>7.8</td> <td>47%</td> <td>23.0</td> <td>34%</td> </tr> <tr> <td> 用補費</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td> その他</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table> <p>【施工済みの内容】</p> <p>林道開設延長 2,526m</p> <p>【事後評価に準ずるフォローアップ】</p> <p>開設済みの箇所から林道の供用を開始しており、森林の整備が進んでいる。</p> <p>2022年時点の達成目標値 59.76ha (2023年目標値 66.4ha) に対し、77.5ha の森林整備が実</p>			2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	計	工種区分	調査・設計																		林道開設工事																		その他																		(億円)	前回計画	16.5											-					16.5	実績	2.4					5.4					13.4					1.8	7.8	今回計画	2.4					5.4					13.4					1.8	23.0		これまでの計画に対する達成状況			全体進捗状況		計画【①】	実績【②】	達成率(%)【②÷①】	計画【③】	進捗率(%)【②÷③】	延長(km)	11.0	2.5	23%	11.0	23%	事業費(億円)	16.5	7.8	47%	23.0	34%	工事費	16.5	7.8	47%	23.0	34%	用補費	-	-	-	-	-	その他	-	-	-	-	-
			2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	計																																																																																																																																																									
工種区分	調査・設計																																																																																																																																																																											
	林道開設工事																																																																																																																																																																											
	その他																																																																																																																																																																											
(億円)	前回計画	16.5											-					16.5																																																																																																																																																										
	実績	2.4					5.4					13.4					1.8	7.8																																																																																																																																																										
	今回計画	2.4					5.4					13.4					1.8	23.0																																																																																																																																																										
	これまでの計画に対する達成状況			全体進捗状況																																																																																																																																																																								
	計画【①】	実績【②】	達成率(%)【②÷①】	計画【③】	進捗率(%)【②÷③】																																																																																																																																																																							
延長(km)	11.0	2.5	23%	11.0	23%																																																																																																																																																																							
事業費(億円)	16.5	7.8	47%	23.0	34%																																																																																																																																																																							
工事費	16.5	7.8	47%	23.0	34%																																																																																																																																																																							
用補費	-	-	-	-	-																																																																																																																																																																							
その他	-	-	-	-	-																																																																																																																																																																							

	施されている。
2) 未着手 又は長期化の理由	工事の進捗とともに、当初計画時には想定していなかった転石群、風化した岩盤や脆弱土質が多く出現し、その対策工の施工にかなりの時期を要した。また、それに付随して計画路線形を変更する必要が生じたため、林道に平行する県道への落石についても対策をとる必要が生じた。その結果、計画より開設延長の進捗に遅れが生じた。
3) 今後の事業進捗の見込み	<p>【阻害要因】 施工が困難な転石群及び岩盤、急峻な地形、脆弱な土質が局所的に多く出現。 隣接する県道への落石対策。</p> <p>【今後の見込み】 当初は予見できなかった地質や地形等の阻害要因があったが、今後の開設区間については、阻害要因の出現も減少し、今後は新たな事業計画に沿って事業が進められるため 2029 年度に完了する見込みである。</p>
判定	<p>A：これまで事業は順調であり、引き続き計画通り確実な完成が見込まれる。</p> <p>B：次のいずれか（該当する項目に「○印」を付ける）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまで事業は順調である。今後は多少の阻害要因が見込まれるものの、一定の期間等を要すれば、解決できる見通しがあり、ほぼ計画通りの完成が見込まれる。 ○これまで事業が長期化していたが、事業期間を延長したことにより、今後は阻害要因がなく、ほぼ計画通りの完成が見込まれる。 ・これまでの事業長期化により、事業期間を延長した。今後も多少の阻害要因が見込まれるが、一定の期間等を要すれば、解決できる見通しがあり、ほぼ計画通りの完成が見込まれる。 <p>C：阻害要因の解決が困難で、現時点では、事業進捗の目処がたたない。</p>
	<p>【理由】 地形等による阻害要因を反映させた事業内容とし、事業期間及び事業費を変更したことから、今後は計画通りに完了することが見込まれるため。</p>

③事業の効果の変化	1) 貨幣価値化可能な効果(費用対効果分析結果)の変化	<p>【貨幣価値化可能な効果(費用対効果)分析の算定基礎となった要因変化の有無】</p> <p>有: 地質等に起因する林道開設期間の延長および開設費用の増加</p> <p>【貨幣価値化可能な効果(費用対効果)分析結果】</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2" style="text-align: center;">区分</th> <th style="text-align: center;">事業採択時 (基準年:2013)</th> <th style="text-align: center;">再評価時 (1回目) (基準年:2018)</th> <th style="text-align: center;">再評価時 (2回目) (基準年:2023)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4" style="text-align: center;">費用 (億円)</td> <td style="text-align: center;">事業費</td> <td style="text-align: right;">13.2</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: right;">22.2</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">維持管理費</td> <td style="text-align: right;">0.0</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: right;">0.4</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">森林整備費</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: right;">1.4</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">合計(A)</td> <td style="text-align: right;">13.2</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: right;">24.0</td> </tr> <tr> <td rowspan="5" style="text-align: center;">便益 (億円)</td> <td style="text-align: center;">木材生産便益</td> <td style="text-align: right;">7.0</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: right;">11.9</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">森林整備経費縮減便益</td> <td style="text-align: right;">7.1</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: right;">16.4</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">その他</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">-</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">合計(B)</td> <td style="text-align: right;">14.1</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: right;">28.3</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">(参考)</td> <td style="text-align: center;">森林整備予定面積(ha)</td> <td style="text-align: right;">102.9</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: right;">158.2</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">算定要因</td> <td style="text-align: center;">木材価格(円/m3)</td> <td style="text-align: right;">15,500</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: right;">20,200</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">費用対効果分析結果(B/C)</td> <td style="text-align: right;">1.1</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: right;">1.2</td> </tr> </tbody> </table> <p>※金額は、社会的割引率(4%)及びデフレーターを用いて現在の価値に換算したものの。</p> <p>※2018年に行った再評価時は、事前評価から事業費が3割を超える変化がなかったため、愛知県公共事業評価細則第4の2により効果を算定していない。</p> <p>【貨幣価値化可能な効果(費用対効果)分析手法】</p> <p>「林野公共事業における事業評価マニュアル(平成26年4月(令和5年4月単価改定))」に基づき算出している。</p> <p>【変動要因の分析】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工事費の増加及び事業期間の延長による事業費の増加。 ・新たな森林整備予定箇所を追加できたことによる森林整備経費縮減等便益等の増加。 		区分		事業採択時 (基準年:2013)	再評価時 (1回目) (基準年:2018)	再評価時 (2回目) (基準年:2023)	費用 (億円)	事業費	13.2	-	22.2	維持管理費	0.0	-	0.4	森林整備費	-	-	1.4	合計(A)	13.2	-	24.0	便益 (億円)	木材生産便益	7.0	-	11.9	森林整備経費縮減便益	7.1	-	16.4	その他	-	-	-	合計(B)	14.1	-	28.3	(参考)	森林整備予定面積(ha)	102.9	-	158.2	算定要因	木材価格(円/m3)	15,500	-	20,200	費用対効果分析結果(B/C)		1.1	-	1.2
	区分		事業採択時 (基準年:2013)	再評価時 (1回目) (基準年:2018)	再評価時 (2回目) (基準年:2023)																																																				
	費用 (億円)	事業費	13.2	-	22.2																																																				
維持管理費		0.0	-	0.4																																																					
森林整備費		-	-	1.4																																																					
合計(A)		13.2	-	24.0																																																					
便益 (億円)	木材生産便益	7.0	-	11.9																																																					
	森林整備経費縮減便益	7.1	-	16.4																																																					
	その他	-	-	-																																																					
	合計(B)	14.1	-	28.3																																																					
	(参考)	森林整備予定面積(ha)	102.9	-	158.2																																																				
算定要因	木材価格(円/m3)	15,500	-	20,200																																																					
費用対効果分析結果(B/C)		1.1	-	1.2																																																					
2) 貨幣価値化困難な効果の変化	<p>【事前評価時の状況】</p> <p>該当なし</p> <p>【再評価時の状況】</p> <p>該当なし</p> <p>【変動要因の分析】</p> <p>該当なし</p>																																																								
判定	A	<p>A: 事業着手時とほぼ同様の事業効果が発現される見通しがある。</p> <p>B: 事業着手時と比べ低下が見られるが、十分な事業効果が確保される見通しがある。</p> <p>C: 事業着手時と比べ著しく低下し、現時点では事業効果が確保される見通しが立たない。</p> <p>【理由】</p> <p>森林整備が十分に計画されていること、開設済の区間では森林整備を計画以上に実施していること、さらに、林道未開設区間の新たな伐採計画を掘り起こすことが出来たため、十分な事業効果の発現が見込まれるため。</p>																																																							
III 対応方針(案)																																																									
継続	<p>中止: 上記①~③の評価で一つでもC判定があるもの。</p> <p>継続: 上記以外のもの。</p>																																																								
IV 事後評価実施の有無と主な評価内容																																																									
<p><input checked="" type="checkbox"/>対象(事業完了後5年目) <input type="checkbox"/>対象外</p> <p>【事業完了後5年を越えて実施する理由・対象外の理由】</p> <p>—</p> <p>【主な評価内容】</p> <p>間伐などの森林整備の状況から事業効果を確認する。</p>																																																									

V 事業評価監視委員会の意見
VI 対応方針